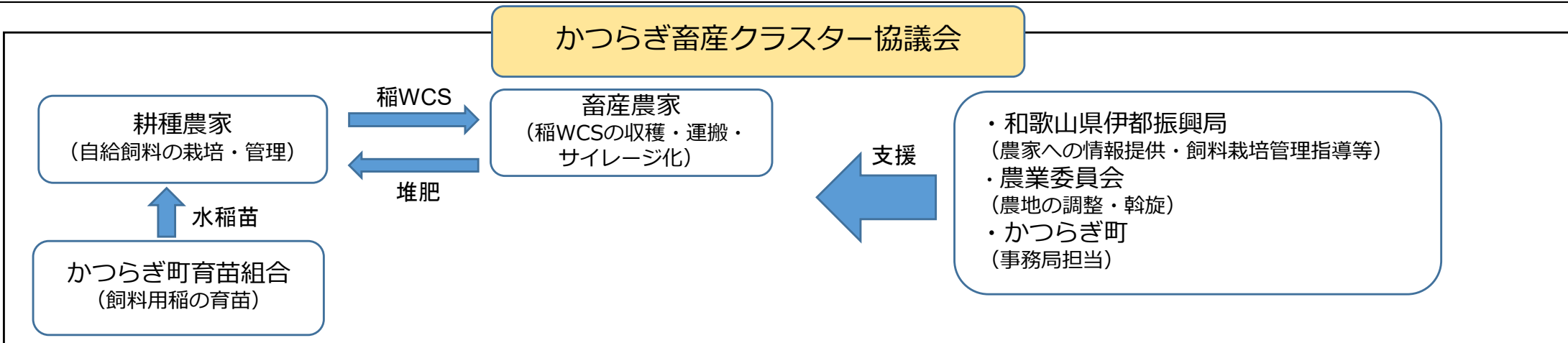


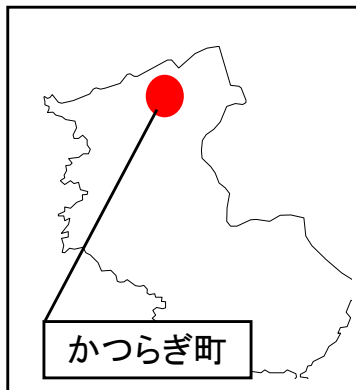
【耕畜連携】（和歌山県 かつらぎ畜産クラスター協議会）

- かつらぎ畜産クラスター協議会では、自給飼料の生産拡大を図ることにより、経営コストの軽減と安定化を推進。
- 農業委員会等の紹介で、平成28年度からWCS用稲の生産を開始。耕種農家が栽培したWCS用稲を町内の肉用牛繁殖農家1戸が収穫・サイレージ化し、給与。また、畜産農家で生じた堆肥を耕種農家の田畑に散布。
- 令和5年のWCS用稲の作付面積は約95aで、飼料自給生産量は11.5t。耕種農家では、堆肥の利用に伴い、化学肥料の投入量低減にも貢献。



（取組内容）

- 全国和牛能力共進会和歌山県出品推進協議会が作成する飼養管理マニュアルの実践及び稲WCSの自給飼料生産



【繁殖農家の効果】

飼料自給生産量 0t (H27) → 11.5t (R5)
・飼料用作物の作付増加 稲WCS 0a→95a

【耕種農家の効果】

- ・堆肥投入による化成肥料（窒素成分）使用量の削減

さらに、栄養価の高い自給飼料給与などにより

【その他の今後期待される効果】

- ・和牛繁殖雌牛の分娩間隔を短縮、子牛増体量アップ